

文化高知

2005年9月 NO.127



「夕照」 土居恒夫

〈もくじ〉

| | | |
|---------------------------|-------|-------|
| 「文化」とホテル | 森 俊宏 | 2 |
| 介良自慢 | 鍋島高明 | 3 |
| 「フラメンコ曾根崎心中」と出合えて | 黒田月水 | 4～5 |
| 反骨の人－森下雨水 | 高橋 正 | 6～7 |
| 「アール・ブリュット＝生の芸術について」私的雑感 | 山中雅史 | 8～9 |
| おとなも子どもともに楽しむ | 武市真寿美 | 10～11 |
| 「ヘルマン・ヘッセ展－画家と詩人－」展覧会への誘い | 津田加須子 | 12 |
| かるぼーと夏の事業のご報告 | | 13 |
| 風俗歳時記・風伯 | | 14～15 |

(財) 高知市文化振興事業団

「文化」とホテル

森 俊 宏

大阪、京都に続く新阪急ホテルグループの三番目のホテルとして、高知に開業させていただいてから二十年が経過しました。大阪を基盤としてきた新阪急ホテルにとりまして、高知でのホテル運営は大阪との文化の違いを認識し、高知文化を知るところから始まりました。

高知の「食」と言えば、皿鉢料理があまりにも有名です。大勢で皿鉢を囲み、食べたいものを自由に自分のお皿に取るというスタイルは、現代のパーティ料理の原型であり、それほど昔から土佐の人たちは大勢の人が集まること、そして自由であることを大切に考えておられたのだと思います。お酒をよく嗜まれることや、結婚披露宴に出席されるお客様の人数が非常に多いということにも驚きましたが、これも集いを重んじ、

多くの人と交流しようという土佐の文化の表れではないかと思えます。そうした良き高知文化があつてこそ、私たちのホテルも温かく受け入れていただき、こうして二十周年を迎えられたのだと感謝しております。そして二十年が経過した今、文化の創造や交流といった面でホテルが少しでも高知のお役に立てないものかと考えています。

私たちは今年に入り「地産地消フェア」と称して土佐の食材を使った食事をご用意しています。これは地元の皆様があまり意識されていない食材にまで光を当てて、それにホテルのテイストを加え、オリジナルなお料理をご提供するのですが、ホテルで食事をされるお客様に生産者の方々の熱い思いが伝わるような形でお届けできないものかと思つてい

ます。
また首都圏をはじめとするグループホテルから、流行の最先端に行く料理や新しい催し物などの面白い情報があればいち早く手に入れて、それを私たちホテルの手で高知流にアレンジしてお客様にご紹介したいとも考えています。
一方で高知の良さを県外に向けてアピールすることも私たちの大切な役割だと感じています。どこの土地にも名所旧蹟の良さ以上に、来てみて初めてわかる素晴らしさがあります。全国的にはまだ知られていなくても、これこそが高知の本当の美しさ、美味しさ、そして楽しさだといふものを、ホテルを通して全国に紹

介し、たくさんのお客様に高知を訪れていただきたいものです。
高知のホテルに携わってまだ間もない私ですが、「お酒の飲み方」文化だけを学んでいると言われぬように、いろいろな情報をキャッチできるアンテナをはりめぐらせながら、今までホテルを育てていただいた高知の皆様とさらにつながりを深めて、文化の創造や交流といった側面で僅かばかりでも貢献することができれば幸いです。

もりとしひろ／(株)高知新阪急ホテル代表取締役社長



介良 自慢

鍋島 高明

高知を離れてちょうど五十年になる。高校卒業半世紀を記念して今秋には同級生が全員集合することになつてゐる。年を経るとともに故郷への想いは強まる。

私が生まれたのは、高知市介良だが、神田神保町の古書街を歩いていて時たま「介良風土記」に出会う。思ひの外、高い値段が付いていたりすると、介良の価値が上つたかのようなうれしい気持ちにしてくれる。

今日では高知市のベッドタウンに様変わりしたが、子供の頃の介良は純農村地帯で、米の二期作発祥地というのが自慢のタネだった。一学年は五十人位で一クラス、校舎は老朽化が目立ち、「介良の学校ボロ学校、雨が降つたら漏る学校、風が吹いたら飛ぶ学校」と自嘲し合った。近くに源希義公のお墓があり、輪番で掃除に行くときりがあった。希義公とか、希義様と呼んでいたが、源頼

朝や義経の弟に当たる由緒正しい人物であるとするのはずっと後のことである。

第二次大戦末期、いよいよ米軍の艦砲射撃が近いとの情報に怯えた村人たちが希義公のお墓の周りに集結したのは、希義公のお力にすがりたいの思いだったかも知れない。

「介良風土記」は昭和四十七年、介良村が高知市に合併した記念に編纂されたもので、郷土史家として著名な橋詰延寿氏の労作である。橋詰先生は私が小学校時代、介良小の校長でもあったが、間もなく県議選に出馬して見事当選されたのを子供心にも誇らしく思ったものだ。

「介良風土記」には「介良巡り」と題する長詩が収められていて、昔の介良が甦ってくる。

「稲生村との境なる かたき岩屋のその奥の 骨石山は昔より 山に満ちたる石灰は 焼くや煙の絶間な

く のぼるは村の宝なり」

稲生と介良の村境にあつた石灰山はいつの間にか掘り尽くされ、今では廃墟と化した。全身灰塵にまみれ、手拭いで頬被りした石灰夫たちが右往左往しながら辺り一帯に男のエネルギーを発散していた。「発破」の時刻が近づくと、交通は遮断され、道行く人は恐怖と好奇の眼差しでその瞬間を見守つた。

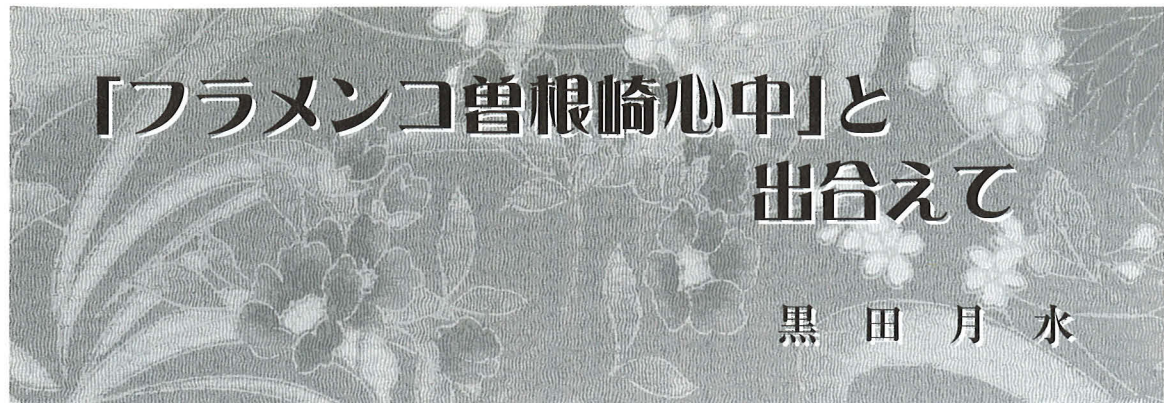
「丁面行けば奥の谷 小山を降りて岩が端 まわるこなたに清水湧く 白水部落も近づきぬ 道のそばなる小社は 斉藤別当実盛を祭ると聞けばなつかしや」

中世、北国一帯に栄えた豪族、斉藤氏を祀る社がなぜ介良にあるのか、橋詰先生もそこまでは書き込んでくれない。村では誰も「サネモリ」とは読まず、「サデモリ」「サデモリ」と呼んでいた。作家の向田邦子さんが「兎追いし」を「兎美味

し」と、「野中の薔薇」を「夜中の薔薇」と思い込んでいたという笑話がい出される。そして集落のほとんどが「鍋島」姓を名乗る白水（しらみず）も、今では丙何番地と変わり果てた。
「哀れや冠者希義の 墓はいずこ と来てみれば 城山陰に虫の音の裏に侘びたる今もなお」

NHKの大河ドラマ「義経」の最後で毎回ゆかりの地を紹介する「義経紀行」にいつ、希義の墓が登場するのか、楽しみにしているのだが。その時は「語り」を担当する平野啓子アナは独特の艶ある声で「介良はその昔、『和名抄』には気良（きら）郷とあり……JR御免駅から車で十分」などと紹介され、一躍全国区に躍り出ることだろう。そうなれば筆者の「介良自慢」は一段とオクターブが上がリ、「札場に近き宮の谷ここに朝峰神社あり 春は桜に夏は藤 壮麗言わんかたぞなし」と、またまた「介良巡り」を持ち出し、この長詩の作者、鍋島子之助とはおらが爺様なるゾ、などと余計なことまで口走るかも知れない。

なべしまたかはる／(株)市場経済研究所代表取締役



「フラメンコ曾根崎心中」と出合えて

黒田月水

「あの…もしかしたら…黒田さんにお願ひすることが…あるかも…」ドアを半開きにした向こうから、阿木耀子さんが顔だけひょっこりと出して、ポツリポツリと何ともいえない顔でそれだけ言うと、輝く妖精の笑顔を残したまま、パタリとドアを閉めてしまいました。五年前、宇崎竜童さん、阿木耀子さんが経営するライブハウス『ノヴェンバー・イレブンス』での公演が終わり、三階事務所で帰り支度をしていた時の事でした。

それが、いわゆる『フラメンコ曾根崎心中』への出演の依頼だったのです。ふたを開けると、宇崎さん、阿木さんの事務所に当時勤めていた香月澄夜さんが、私の琵琶を聴き、フラメンコに合うのではないかと私を推薦してくれたのでした。宇崎さん、阿木さんご夫婦はもちろんですが、香月さんもこの後、私にとつて恩人とも言える方になったのです。話がそれてしまいますので、それはまた、いつかどこかで…。

本題のフラメンコ曾根崎心中に戻りますが、「フラメンコに琵琶ですか?」、正直不安は隠せませんでした。以前師匠が「フラメンコと琵琶って意外と合うのよね」と言っ

いたのを思い出し、私にもできるんじゃないかと、とてもとても元氣良くOKしたことは覚えています。しかし、曾根崎心中!? 近松門左衛門ですか!? 文楽では見たことがありますが、後は本で読んだくらいです。どうして宇崎さんが…そして、何でフラメンコ?、この流れを簡単に説明しておいたほうが、きっとフラメンコ曾根崎心中を見に来られる方も十倍楽しめるかも…!?

聞いたところによりますと、宇崎さん(リーダー)といつもお呼びさせていたお呼びです。以下「リーダー」がダウン・タウン・ブギウギ・バンドでブレイクした後、映画に出演されたそうで、それが「曾根崎心中」だったそうです。しかし、ご本人いわく、自分の演技に対して、とても満足のいくものではなく、そのリベンジに「ロック・曾根崎心中」を作ったんだとおっしゃっていました。それが今から二十五年前のお話だそうです。

その後、渋谷の「じゃんじゃん」で文楽人形を使った「ロック・曾根崎心中」を公演。その後二十年間いろいろな所で公演をされていました。その「ロック・曾根崎心中」をフラメンコでやったらどうかという

お話が出たのが五年前、冒頭の「あの…」と、阿木さんが声を掛けてくださった時なのです。まず、とりあえず、この作品で主役を務める鍵田真由美さん、佐藤浩希さんの待つ池ノ上のお稽古場に伺い、音を作ることから始まりました。リーダーと阿木さんからは、「三幕、お初と徳兵衛の道行きシーン」『どうで女房にヤ持ちやすまい』ここだけに入ってください。音は好きなように琵琶風にお願ひいたします」ということでした。

一時間半以上ある作品の中で、私の出演はわずか十分足らず…。長い稽古時間、私はひたすら待ち、音を出すのは一回だけ。「何だか私は参加していいのだろうか?」と不安になりました。みんなは、ああでもない、こうでもないと言を作り、踊り、愉しそう。でも、私は待つだけ。そこでもうひとつの不安が頭をもたげました。「私の音、声はこの中になじむことができるのだろうか?」、考えるとどんどん不安になっていきました。本番当日、ミュージシャンたちは所定の位置にスタンバイ。私は楽屋に居ることができず、舞台袖でうろろしていました。裏方さんたちが忙しそうに走り回る中、邪魔

にならないように隅のほうに立っていたら、舞台監督の青木さんが「月水さん、こつち」とミュージシャンの後ろに席を用意してくれていました。そこは私にしか与えられない特等席。ミュージシャンの肩越しから見える舞台、客席。それまで作り上げた音、踊りがまるで命を授かったように生き生きと跳ねていました。観客とも出演者とも全く別な位置に私は居て、どんどんひき込まれていきました。「ああ…そうか、これでもいいんだ」説明できないような納得を感じました。自分の出番では、とても自然に音も声も出ました。終わった後は、胸の奥底から湧き上る熱いものをこらえることができませんでした。気が付くと誰もが涙し、抱き合っていました。舞台人であることに感謝しました。琵琶を続けられるよう助けてくださった方々に感謝しました。

一回の公演で終わると思っていたのが、再演、再々演と続き、昨年はフラメンコの本場スペインのヘレスにまで遠征。ヘレスでは、全部日本語のフラメンコ舞踊、しかもスペインには「心中」を表現する単語がなく、理解されるのだろうか、との不安がありました。しかし、そのい

れの心配も全く無用でした。東洋を表す衣装の色や姿、それだけでも会場から「ホォー」と声が上がリ、次々と展開してゆくテンポ、群舞の糸乱れぬさまは、美しさと迫力を存分に伝えていました。もちろん、鎌田さんのソロ、舞台の転換ごとに沸き上がる惜しみない拍手。やがて、静かに佳境を迎える頃、人々は頬を拭きました。そして、幕が下りた後は、全員がスタンディングオベーションの嵐でした。この「フラメンコ曾根崎心中」を通じ、私は観客と舞台との深い関係を学ばせていただき、舞台に潜む「魔物」を知りました。



2005.7.15 大阪サンケイホールでの公演より。左から四人目が筆者。筆者の右に、佐藤浩希さん、阿木耀子さん、宇崎竜童さん、鍵田真由美さん(川島浩之カメラマン撮影)

反骨の人——森下雨村

高橋 正

日本の探偵小説の生みの親としての雨村、あるいはリタイアの名人、アウトドア・ライフの先駆者としての雨村については、最近の雨村ブームのなかで喧伝されたが、雨村についてはまだまだ未知の部分が多いのである。

先頃、高知県立文学館で開催された「日本探偵小説の父 森下雨村」展の折、来高された雨村のご次男の時男さんがテレビのインタビューのなかで、雨村の人柄について、「正義感、権力嫌い、物欲・名誉欲なし」と述べられたことが印象に残っている。「年譜」によると、昭和十五年佐川に帰郷中のこと、近隣の瓦職人の家で失火、その調査に来た巡査が妻君をひどく叱りつけて、その声に怯えて子供が泣きわめくのを、畑仕事をしていた雨村が聞きつけて、憤慨、抗議したところ、ひと晩警察署に留置されたことがあった。権力嫌いの雨村らしいエピソードだ。大正末から昭和の初めにかけて、

の珍事 我軍用列車爆破顛覆 死傷五十一名出だすの見出しがあつて、関東軍の満州制圧も容易ならぬ事態であることがうかがわれる。四月三十日の夕刊の一面には上海で「支那人の爆弾に中り重光公使等重傷す」、五月十六日の朝刊の二面にはいわゆる五・一五事件、右翼青年将校らの反乱で「首相遂に凶事に倒る 昨夜十一時廿六分絶命」などの重大事件が報じられている。「凶事に倒」れた首相は犬養毅である。その他、「再建共産党の首脳部 蔵原以下一斉に検挙」（四月九日）、「中条百合子氏も突如検挙さる」（四月十日）、「十人に一人半の割合 失業者市の東京」（四月十四日）、「不景気にあへぎ抜く 全国四千の製糸



雨村の創作探偵小説

日本の産業界は第一次世界大戦後の世界的な恐慌のおりを受けて、都市では失業者が溢れ、自殺者が続出、農村では娘の身売りが社会問題化しつつあった。このような窮境からの脱出路を、軍部は武力による大陸侵略の方向に求め、遂に昭和六年九月十八日、満州事変を引き起こした。一方、共産主義者たちは急速な国内革命をのぞみ、度重なる弾圧、大量検挙を招いた。左、右いずれの道にも共感できなかった一般大衆は、エロ、グロ、ナンセンスの利他的享樂にはしった。

満州事変勃発の翌七年六月の『新潮』に載った雨村の「日本の問題」と「三角点」と題する文章は、なかなか本音を漏らさぬ雨村には珍しい時局批判の文章で興味深い。雨村は執筆直前の四月、五月の『東京朝日新聞』の、主に三面記事を引用しながら感想や時局批判を述べている。近頃、目についた中では、二十二歳にもなる天理教会教師の

業者」（四月二十日）などの暗い記事が目につく。

ほんの一、二か月の新聞の記事のごく一部をピックアップしてみたのだが、雨村のいうように当時の日本の国情は内外ともに危機的な状況にあったことが手に取るようによくわかる。雨村は「相次いだテロの横行、右翼左翼の弾圧取締り、社会の全層にわたる階級闘争、生活苦の産む犯罪と悲劇、それらの大部分が無能無策の政党政治」の結果であると断じ、「我々には日本といふ国が当然ぶつからねばならなかつた大きな潮の上に、今正に乘上げて、それを立派に乗り切つてゆくか、それともそのまゝ、押流されてゆくか」の「三角点」、つまり重大な岐路に立たされていると述べて、暗に軍部の独走を批判しながら、国の行末を案じている。

雨村の父・馬三郎は簡潔ながら息子の動静を細大漏らさず記した日記を残している。太平洋戦争直前の昭和十六年八月十四日の日記に、「防空演習三時済む 鮎かけ本日も帰らず」とある。馬三郎は片足を切断、不自由な身であり、防空演習へは息子の雨村が当然参加するべきであるが、彼は鮎かけに出かけている。これは明らかに非国民的行為である。

娘が、失恋か何か、ら、「満州事件（事変のこと）の戦死者が多いから、死んでも寂しくない」といふ父親宛の遺書を懐に、ホテルの一室で人形を抱いて猫イラズで自殺したといふ記事があつた。さうかと思ふと、凱旋する孫から「記念品をと、のへておいてくれ」との電報を受けた七十五になる祖母が、その記念品を買ふ金がなく、無事で帰る孫の顔は見たいが、凱旋記念の土産物がなくて当人の肩身が狭からうと、それを苦にして縊死したといふ笑ひごとでない記事もあつた。いづれも十行かそれらの記事ではあるが、短いながらも、それぞれ今日の世相を反映するスナップショットであるやうに思へて、そのまゝ、読みすて、しまふわけにはゆかない。

雨村が引用した二つの哀れな自殺記事はいずれも満州事変が絡んでおり、数ある三面記事の中からわざわざこの二つを選び、並べて引用したところに、雨村の思想を垣間見ることが出来る。雨村は間

雨村の防空演習拒絶は単なる権力嫌いというよりも、かつて「今日の問題」と「三角点」で雨村が指摘した国家の重大な岐路を日本政府が「立派に乗り切つてゆく」ことができず、軍部主導の対外強硬路線、戦争への道へ「押流されて」いったことに對するささやかな抵抗ではなかつたらうか。

雨村の反骨を裏付けるいま一つの資料がある。それは以前に時男さんから戴いた資料で、時男さんが書かれた新聞のコラム「一駒の江口渕」（平成八年八月六日）という文章である。江口渕（二八八七—一九七五）は左翼系文学者。渕の父江口襄は帝大医学部で森鷗外やジョン万次郎の息子中浜東一郎と同級、鷗外の名作「雁」のモデルの一人である。渕は昭和八年二月、国家権力により拷問虐殺された小林多喜二の葬儀委員長を務めて逮捕されるなど、逮捕歴三回の闘士であつた。

治安維持法違反で昭和十二年一月に渕が逮捕されたときの話である。吉祥寺の雨村宅の近所に渕の家があり、近くの子供たちからは意味もわからずに「アカ」の家と恐れられていた。時男さんの文に「小学一年生（時男さん）は、父の部屋に夕刊を届けた。大きな見出しの一面を見る

接的ながら武力による満州侵略にノ」と言っているのである。

雨村は「もしこ、一二ヶ月の新聞をとりまどめて」読めば、誰しも「現在の日本があらゆる意味で、大きな転換の岐路に立つてゐることに気づいて、目を醒めだらう」と述べている。「こ、一二ヶ月の新聞」というのは、もちろん先にも記したように、昭和七年四月、五月の『東京朝日』の記事のことである。マイクローフィルムで覗いてみると、四月二日の夕刊の一面には「間島（中国東北吉林省の延辺地区）の馬賊反乱軍化す百草溝の危機迫り 領事分館死守に決す」とか「農安城付近で激戦迫まる」とかの見出しがあり、四月十四日の夕刊の一面には「ハルビン東方



探偵小説家の登龍門『新青年』の編集長時代の森下雨村

なり、父はうぬと唸った。左翼思想家の検挙で何人かの顔写真に、近所の江口さんが載っていたからだ」とある。この時の雨村の「うぬ」という唸り声は単なる驚きだけではあるまい。

翌年暮れ、渕が保釈され、懲役二年執行猶予三年の判決後のこと、雨村の指示で時男さんのお母さんは時男さんを連れて、恐ろしい「アカ」の家、渕宅を訪れ、風呂敷包みの品物を渕に差し出した。「江口さんは、添ない、ご主人によるしく伝言願いますと角張つて言った。母を直視し子供には目もくれない。私はきちんと正座した精悍な顔を見上げていた」と時男さんは書いておられる。この好意的訪問は三年ほど続いたとあるから、単なる近所付き合いのレベルではない。「アカ」のシンパというだけで、しよつ引かれるきびしいご時勢であつたことを考えれば、雨村の渕への好意的態度はまさに筋金入りの反骨であつたといえよう。

反骨の人雨村の真骨頂を伝えるエピソードはまだまだ他にもありそうである。人間雨村の全体像は十分明らかでない。雨村研究はこれからである。

（たかはしただし／高知ペンクラ）
（ブ会長・高知高専名誉教授）

「アール・ブリュット」生の芸術について」私的雑感

山中雅史

僕は、小さな時から、風景や物をずっと眺めてはその世界に入り、いろんな想像をして遊ぶのが好きでした。

それから絵の世界も好きになり、高校生になると、いろんな展覧会を見に行ったり、自分でも描くようになったりしました。表現主義・抽象・シュールなんかも興味が出て、図書館に行ったら片っ端から世界美術全集を開けて、そのすばらしさに心

を動かされていました。

その時の僕は、芸術、美術に対して、多くの若い人が持つような飢え、渇き、憧れ、夢、希望、畏怖：の感情を持っていました。ですから、いい画集を見ると、「僕もこれくらいの：いや、これ以上の傑作を描くぞー」とか思っていた時期でした。

時が流れ、美術中心の生活（版画やアクリル画、立体作品の制作）が始まり、自分自身が個展やグループ展を催したり、



山中雅史「ひと」 木版画

ボランティアで大規模な展覧会の企画、運営、展示設定などを手伝ったりするようになりました。ですが、なぜかその頃からかどの展覧会に行っても、テレビ

の美術番組を見ても、何か物足りない、何かつまらない感じを持つようになってしまいました。好きなはずなのに？ あの高校生の時の感情はどこに行ったのか？ 最初にそれが気付いた時は、「僕は絵を見る感性が鈍くなったのかなあ？」、でもいいと思う絵もあったりもするし、「これって一体何なんだろう？」と漠然と思っていた時期がずっとありました。

でも、ある時分かりました！僕が「アール・ブリュット」の作品に心を惹かれていたということ。

「アール・ブリュット Art Brut」の意味は、加工されていない「生（き）の芸術」という意味のフランス語で、一九四五年精神障害者の創作作品を調査していた画家ジャン・デュビュッフェがこれらの創作を命名するために考案した言葉で、その後、精神障害者に限らず、いわゆる美術教育を受けていない人たちが美術制度の

そこでの人との出会い、たくさんの作品との出会い。魅力的なもの、刺激的なもの、破壊的なもの、平和なもの、偏執的なもの、いろんなものが混ざったもの。作られた作品の全部が全部、傑作であるというものではないのですが、それも現実です。でも、確信したのは、僕の絵の見方、考え方は、間違っていないかった。彼らは、「アール・ブリュット」の精神の持ち主であり、生であり、無垢です。無限な可能性を持っているアーティストだ！

その病院で、療養生活を長く送っているある一人の患者さんがいます。僕が病院へ講師として行く以前から彼はボールペンで個人的な地図、お金、軍人、軍艦の絵を一日中描いていたそうです。ある日、僕の時間に、彼が偶然来ました。彼の絵は知っていましたが、本人に会ったのはそれが初めてで、脇にはびっしりお金などが描かれた大学ノートや広告紙を何冊も抱えていました。早速、作業療法士に紹介してもらったから、彼に言いました。「ボールペンもい



彼との出会いで「絵を教える」ということを再確認できました。絵を教えるというのは、人と人との出会い、場と時間の共有、同じ目的を持つ者同士、相手から教えられるもの、深い意味で何も教えないこと、だと。

「絵を教える」ということの再確認はできました。じゃあ、肝心の自分自身は、これからどんな思いで制作をしていけばいいのか？ そう、同じ精神の持ち主であろう。生であり無垢であろう。内なる目を開け、心の揺れに耳をそばだてよう。世の決まりや押し付けを脱ぎ捨てよう。矛盾・破綻を受け入れよう。etc. … それらをもって、ただ制作すればいいということ。本来、ア



で描いてみたら？」。僕は道具をセットしただけで、邪魔にならないうように何も言わずに見ていました。しばらくすると、独り言（呪文？）と手が一緒になって、画用紙に何か怖い絵（地獄の雲のような絵）をあっという間に完成させてしまいました。僕の身体は一瞬震え、才能がある画家との出会いに酔いました。彼は、それからは、僕の時間に毎回出て来てくれるようになり、とても怖くてすばらしい作品をたくさん作り上げていきます。また、絵の具のない所では、ボールペンを使った以前の作風のものも並行してずっと描かれています。それもなかなか良い作品です。

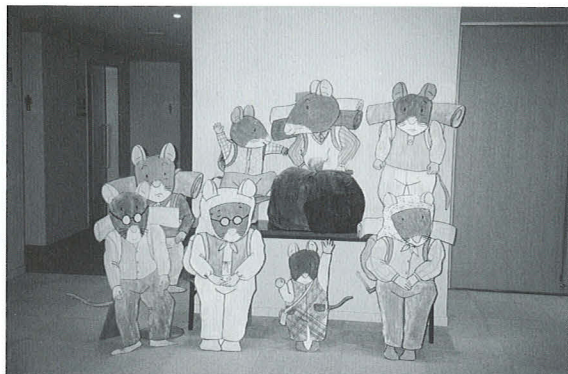
トの世界の地図は真っ白で、自分自身で描いて旅するものだと。

今、高知では、「生の芸術」に触れる機会が増えています。「スピリッツ・アート展」が毎年開催されていますし、「療養者作品展」などの定期展や「高知市展」でも見る事ができます。また、「てくとこギャラリー」のような展示スペースも出てきています。

できるだけ多くの人に、その世界その心に触れてもらい、普段日常で忘れていた「何か？」に気が付いてもらいたいと思います。

やまなかまさし／画家・市民学
校版画講師





入りの装飾

私たち高知市子ども劇場は一九七一年、未来を担う子どもの育ちを考えるおとなが集い、誕生しました。そして二〇〇五年四月、特定非営利活動法人高知市子ども劇場として生まれ変わりました。私たちの現在の活動は、大きく分けて『舞台鑑賞活動』と『直接体験活動』から成り立っており、高知市とその周辺に住む子どもとおとなが、住んでいる場所に根付いた地域交流活動も併せて行うなど、会員がやってみようという社会のニーズに合ったことを考え、さまざまな企画を立てて実行し、楽しんでいきます。

それに、また作品の内容、上演の仕方によって会場を選び、それによっては内部の設営も行います。

かるぽーとでのことを取り上げてみると、例えば同じ小ホールでも、小学校二年生以下の小規模作品などを上演する場合は、敷物を敷いてそこにじかに座ってもらう平土間形式をとることが多く、誰もが観やすいようにうまく詰めていただくとか、後ろのいす席ではおとなか、小さい人はお膝にだっこで観ていただく、などの工夫をしています。反対に中学生以上の方に観ていただく一人芝居などは、敷物部分は少ないか、な



カーテンコール

これらの多彩な活動の中で最も特徴的である『舞台鑑賞活動』は、優れた生の舞台芸術作品をおとなも子どもともに楽しむもので、三十五年経った今でも変わらず、年四回年齢に合った作品を選んで『観る』体験を続けています。『観る』ことの何が良いのか？ なぜ続けているのか？ これまでにいろいろな人と話して聞いた言葉や私の思うところを述べていきたいと思います。

優れた生の舞台作品に出会うと、私たちは登場人物の身に起こることを疑似体験して、家まで持ち帰ります。それは例えば、帰り道印象に残った歌を歌いながら歩いたり、身ぶり、手ぶり、口ぶりをまねるのが家族や仲間の間ではやったり、という形で現れます。親子で同じ舞台作品を楽しんで帰っても、印象に残る部分はそれぞれで、「そんなところが好きなのね」「それぞれ！ それ

おとなも子どもも ともに楽しむ

武市真寿美

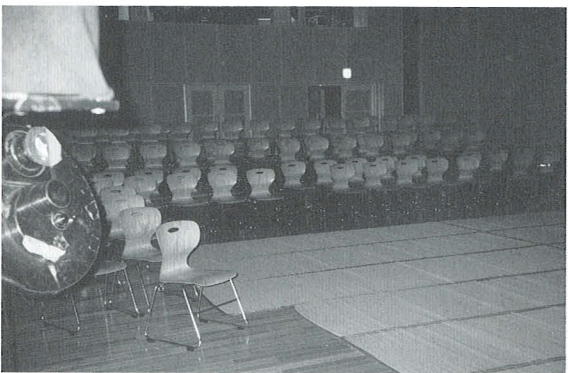
い場合もあり、いす席をフラットな席と階段状に作った席を用意するなどの工夫をしています。もつと少ない人数で観ていただく幼児のための人形劇などは大講義室を使ったりもしますし、会員全員が観る演劇作品などは、やはり大ホールでないこと収容しきれませんし、大人数での迫力ある舞台作品の醍醐味は、大ホールでこそ味わえるものです。

演劇、人形劇、音楽、芸能など、私たちに本物を提供してくださる創造団体の方にベストコンディションで演じていただくためには、こうした会場を運営する皆さんと私たち子ども劇場のメンバーの協力体制がうまくいっていることが重要です。普段の交渉ごとは事務局長が一手に引き受けていますが、会員が交代で入る『例会当番』の中の一つである搬入・搬出のお手伝いは、会場の運営スタッフとかかわることのほとんど

いいんだよね！」など、舞台を通してお互いの感性を改めて知ることもあります。そうした『終わった後の体験』の思い出の積み重ねは、おとなにとっても子どもにとっても、豊かな感性を育てる元になっていて、お互いに対する根本的な信頼感を育てているのではないのでしょうか。

こうした観る側のつながりを豊かにするということも大切なことですが、生の舞台には見る側と作る側のつながりを豊かにする作用もあることは見逃せません。

生の舞台を観に出かけると、テレビやビデオなどと違って、舞台上の演者の生の声や息遣いを体感することができます。舞台は、作品を書く人、舞台上で体現する人（音響・照明・衣装・道具なども含めて）がいて、そこにそれを迎える観客がいて、ともに作品を作っていく場であると思います。だから、その作品



舞台設営

の出来は演じられるたびに違うものになります。それが生の舞台の醍醐味で、感動が場内のすべてに波のように広がる。そんな場に居合わせてしまったら、「また観たい！」とやみつきになってしまいます。

その『感動の波』をうまく会場全体に伝えるために、会場そのものの形、設営の仕方はとても大切です。高知市子ども劇場の会員は四歳以上という決まりはありますが、上限はありませんし、登録をしていれば、作品によっては三歳以下でも保護者の方と一緒に観ていただけるものがあります。そんな幅広い年齢層それ

んね。そうなるといいですね。そんなこんなで三十五年積み重ねてきて、高知市子ども劇場には今、三代目で会員、という方も現れました。年齢を超えてともに楽しめる体験が、ここには三十五年間変わらずにあったからなのでしょう。これからも「また観たい！」とやみつきになる、優れた生の舞台鑑賞体験を、たくさんのおとなと子どもとともに重ねていきたいと思います。

（たけちますみ／NPO法人高知市子ども劇場理事長）



劇団と子どもたち

二〇〇五年、「日本におけるドイツ年」。高知県立文学館では、十月七日（金）～十一月二十日（日）まで、「ヘルマン・ヘッセ展―画家と詩人―」を開催します。二度の世界大戦に見舞われ、混乱と絶望からは

「ヘルマン・ヘッセ展―画家と詩人―」 展覧会への誘い

津田加須子

などで日本人に最も親しまれてきた文学者であり、今日においても私たちに深い感動を与え続けています。

じまった二十世紀。その中でロマン・ロランらとともに高度な精神文化と理想郷を唱え続けたヘルマン・ヘッセは、一九四六年にノーベル文学賞を受賞しています。ヘッセは「車輪の下」「荒野の狼」「シッタルタ」



ヘッセの水彩画

残された家族コレクションの中から、ヘッセの水彩画を中心に、初版本、遺愛品等百十点を厳選して一堂に展観します。同時にヘッセが日本人にどんな影響を与えたか、紐解いてみたいと思います。

ヘルマン・ヘッセは、一八七七年にドイツ南部「黒い森地方」の小都市カルプに生まれました。厳格な家庭に育った彼は、土地の秀才として育ちますが、難関を突破して入学した神学校を脱走、自殺未遂事件を起こして人生の困難を味わいます。十八歳で故郷を離れ、古書店に勤めた頃から本格的に詩を書き始め、二十七歳で書いた小説「ペーター・カールメンチント」（郷愁）がベストセラーとなり、流行作家の仲間入りになります。第一次世界大戦中は反戦を訴

えて、ドイツのマスコミから排除され、苦しい日々を送りますが、スイス国籍を得て南スイスに移住、美しい自然に囲まれて平穏な半生を過ごし、八十五歳で生涯を終えました。ヘッセが本格的に絵を描き始めたのは、四十歳を過ぎた頃です。自らの体験をもとに近代人の苦悩を詩や小説に綴ったヘッセは、第一次世界大戦期の過酷な立場や度重なる家族の不幸に出合い、精神の危機を迎えました。そんな折でした。ヘッセは、水彩画を描く欲びに触れ、そして絵を描くことで癒される自分を発見します。二十世紀の世界文学を代表するヘッセが、人生半ばに見いだした色彩の魔術。



水彩画を描いているヘッセ

今回は、スケッチブックと絵の具を抱えて近隣の山々を散策し、立ち止まっては描き続けた、南スイスの美しい風景画の数々をご覧いただきたいと思います。

晩年ヘッセは読者に「人間がすることのできる最も美しい二つのことは、私にとっては音楽を演奏することと絵を描くことです。私はこの二つのことをただダイレクタントにやっただけにすぎませんが、しかしそれは、生きてゆくことに耐えるという困難な課題にぶつかった時に、私を非常に助けてくれました」と手紙を送っています。

現代人に必要とされている癒しの空間を「ヘルマン・ヘッセ展」を通じてお届けいたします。

（つだかずこ／高知県立文学館主 任学芸員）

高知市文化プラザ 夏の事業のご報告

◆「第四回詩のボクシング高知大会」

七月九日、第四回「詩のボクシング高知大会」が小ホールで開催されました。二人の対戦者＝朗読ボクサーがリング上でオリジナルの詩を朗読し、いかに観客を惹きつけたかを競う「言葉の格闘技」です。

六月五日に行われた予選会には、県下の四市三町一村から、十六才から六十一才までの二十七人が参加、この中から本大会に出場する十六人が選ばれました。

会場では、朗読ボクサーたちが、リングの上の三分間で体全体を使ったり優しく語りかけたり、さまざまにスタイルで言葉に思いを込め、観客に伝えました。

今年も、四回目の出場となる《なかちゃん》選手が、前回チャンピオンの《高瀬草ノ介》選手を接戦の末制し、初めての決勝で見事初優勝。新チャンピオンなちゃん選手は、十月八日東京で開催される「第五回

全国大会」に、高知代表として出場します。

また、八月に山口県下関市で行われた「第二回高校生詩のボクシング全国大会」にも高校三年生の《キクチマサル》選手が推薦され、高知代表として出場しました。

◆「声で遊ぼう！ ～小中学生詩のボクシング～」

子どもたちに日常生活の中でさまざまな文化を体験してもらう「高知市文化体験プログラム支援事業」の一つとして七月二十七日・二十八日の二日間「小中学生詩のボクシング」小学生の部・中学生の部をそれぞれ開催しました。

「詩のボクシング」を通じて、子どもたちに、自分で詩や文を作り声に出すことでコミュニケーションの仕方や言葉による自己表現を学んでもらおうとするもので、小学生の部で十六人、中学生の部で六人が参加しました。

講師の日本朗読ボクシング協会代表楠かつのりさんが、言葉の持つ意味や表現の方法を皆で一緒に考えたり、実際に声に出してみたりしながら指導。

最後に、小学生は二人一組で、中学生は一人ずつでトーナメント戦を行いました。事前に作ってきた作文や、その場で作った詩で対決。皆いきいきとした個性や表現力を発揮し、勝敗はつげがたいものでした。

子どもたちにとっても、保護者にとっても貴重な体験になったことと思います。

◆「アーティストバンク」

「高知市文化プラザ活性化計画」の中の「芸術文化を創造する人材の支援・育成」事業の一つである「アーティストバンク」事業を開始しました。これは、創造する人材に対し活動の場を提供するなどの支援・育成と、優れた芸術文化を発展させることを目的としたものです。初年度となる今年度は、音楽・舞踊・演劇の三ジャンルで募集し、六十六組の登録申込みがありました。

◆「夏休みまんが体験イベント～めざせ！まんが職人」

夏休みの恒例行事となった「夏休みまんが体験イベント～めざせ！まんが職人」は今年で三回目になりました。夏休みの工作が手軽にできるため、全四コース八教室（一教室定員三十人）がすべて定員を超え抽選になるという盛況ぶりでした。

今年も「まんが動物園（七月三十日・三十一日）」「まんが風鈴（八月十三日）」「まんが水族館（八月十四日）」「まんがコースに「まんがモビール（八月二十日）」コースを新設。参加した子どもたちは「楽しかった。また参加したい」「違うコースもやりたい」と好評でした。





旭の隠れ狛犬

旭サティの東側。神社の前は駐車場。その前に延びる参道には家が立ちゴミ箱が置かれ、神聖なはずの狛犬は見事正面に据えられた自販機の背中を覗くことしかできない。この風景、なんとも痛々しいもののようにも思えるのだが、神社は意外に手入れがいき届き、社には両眼の入った連鹿がずらりと並ぶ。まさに生活と密着、生活と融合した、思わずニヤリとする「いい場所」なのだ。(竹村直也)

高知
遺産
The Kochi Heritage 2015

風伯

どうか教えて

3丁目などとなっていたりすると、自分が古い人間だからなのだろうかと不安になる。番地にしても一〇番二四号のところを「十と廿四」と表記しているのを見かける。言葉は時代とともに変化するのだからそれでも仕方がないが、まだあって、この四、五年のことだと思えば、単行本でさえたとえ

最近の新聞や雑誌などの出版物やEメールを見てみると、数字や文字遣いの違いが乱れているように思えて仕方がない。たとえば何丁目と書く場合、漢字で三丁目だと思っただが、「3丁目」の表記がたいへん多い。これは電話帳が誌面の都合で、6000となっているためだと思っていたが、お役所の表記が

三つを「3つ」と書いてしまっケースが出てきたことだ。これは著者も著者だが、出版側の編集の問題もある。が、最近のパソコンでは「1つ」というのがちゃんと変換されてくるから、どうなっているのか、おじさんにはわからなくなってしまう。

もう少し書くとしたら高知市長を高知市長、〇〇大学学長を〇〇大学長、〇〇協会会長を〇〇協会長と書いている場合がある。大学の学と学長の意味や役割が違うのだから、少なくとも私は大学学長や、協会会長として習ってきた。しかし、〇〇村長さん、〇〇△村長となっていたりするので、そんなことはとやかくいわなくてもいいことなのかも知れない。

しかし、市町村や大学や協会で、それぞれ興味に合う表記の仕方である、とも思えないので、大したことはないが、この迷える年寄りに、どなたか、ハッキリとした事情を教えてください。(春愁改め雪氣中)

第147回 市民映画会

「ビヨンド the シー ～夢見るように歌えば～」

実在した天才シンガー、ボビー・ダーリン。残された時間に限りがあると知る彼は、全力でショー・ビジネス界を駆け抜けた。



「アイ・アム・デビッド」

12歳の少年デビッドは、たったひとり、はるかにケンマークを目指して旅にでる。母への想いを胸に。



と き：9月22日(木)、23日(祝・金)
ところ：高知市文化プラザ
かるぽーと大ホール
上映時間：
ビヨンド The シー 12:00/15:45/19:30
アイ・アム・デビッド 14:05/17:50
料金：一般前売り 1,300円(当日1,500円)
学生/シニア1,000円
(身体障害者手帳などをお持ちの方は学生料金)

※前売券は、市内各プレイガイド等で販売。
※お問い合わせ：(財)高知市文化振興事業団
企画事業課(088-883-5071)

今号の表紙

「夕照」 土居恒夫

吉野川は、急峻な山間部を抜けると東西に緩やかな流れに変わります。緩やかな流れは徳島の河口へと続き、肥沃な土地をつくり上げました。川の南北は家々が点在し、それらを結ぶ多くの橋が、人々の生活を育んできました。南北の山が川に落ち、奥へ奥へと続き、その間を縫うように夕日は落ちて行きました。その光景に筆をとられました。(どいつねお)



高知を撮る

第21回写真コンテスト入賞作品

はし拳大会・「勝った!」 石元 雄早夫 (平成16年 県民体育館)

恒例のはし拳大会当日のスナップ写真。男性に勝った女性拳士の狂喜の表情をねらった。

標題の「マクロビオティック」(以下、マクロと略称)というカタカナ語を見ても、「ハテ?」と首をかしげる方が多いであろう。「マクロ」は「大きい」、「バイオ」は「生命」を意味する。『ランダムハウス英和大辞典』には、この語は、見出し語として立項されている。「伝統的考え方と自然との調和を重視する東洋哲学的性格を持つ食餌(じょくじ)法」・特に玄米などの穀物、豆類、野菜および適量の魚介類と果物を主とした食生活

マクロビオティックス



風俗歳時記

提唱者の中心人物・久司道夫の普及活動によって、マクロ食は、徐々にアメリカ社会に浸透していった。また、「いがかわしい民間療法」として、その信憑性を疑われてきたマクロが、栄養学の進展によって助けられるという、幸運にも恵まれた。たとえば、肉でしか摂取できな

ト兄弟などと並んで、日本人としては初めて、スミソニアン歴史博物館に殿堂入りすることになった。参考書：持田鋼一郎『世界が認めた和食の知恵』(朴)

これを契機として、マクロは、アメリカ社会に広く認知され、久司道夫は、その功績によって、エジソンやライ

いとされていたビタミンB12も、納豆などの発酵食品や、海藻のなかに、多量に含まれていることが明らかになってきたのである。

さらに、アメリカ国立衛生研究所の承認を得て催された、マクロによるガン治療の症例研究が注目された。

マクロを実践しているガン患者の症例を細胞検診、X線検査で、追跡調査した結果、治癒したと判定された症例が八十七例あったのである。

地獄のように美しく 極楽のように恐ろしい

原作

近松門左衛門

プロデュース・作詞

阿木耀子

音楽監修・作曲

宇崎竜童

主演・振付・演出

鍵田真由美

佐藤浩希

二〇〇五年九月十三日(火) 十八時三十分開場 十九時開演

高知市文化プラザかるぽーと大ホール

S席六五〇〇円/A席四五〇〇円/第二バルコニー席三〇〇〇円
第三・第四バルコニー席二〇〇〇円

※身障者手帳、療育手帳所持者介護者一名は上記料半額(三割)で購入いただけます。

主催Ⅱ財団法人高知市文化振興事業団/KUTVテレビ高知 助成Ⅱ財団法人地域創造
お問い合わせⅡ財団法人高知市文化振興事業団 〇八八-八八三-五〇七一 www.bunkaplaza.or.jp

2004年“フェスティバル・デ・ヘルス”に海外から初の正式参加
平成13年度文化庁芸術祭舞踊部門優秀賞受賞作品

FLAMENCO 曾根崎心中

<http://www.bunkaplaza.or.jp>

E-mail bunshin@i-kochi.or.jp